

では、今晚の主題説教を皆さんと共に分かち合っていきたいと思いますが、今日は 2015 年の 11 月 22 日です。何の日でしょうか。『いい夫婦の日』だと思っっていると思えますけれども、違います。今日は『主の日』です。それが言いたかったんですけれど。勿論日曜日だけじゃなくて、毎日が主の日ですね。今年は A.D. (anno Domini 主の年という意味です。) 2015 年ですから、毎日が主の日であるべきですね。私たちは特に日曜日を主イエスが復活された記念日としてお祝いすべく、主の教会に集わせて頂いているところではありますが、主の日であると同時に今日は 11 月 22 日で、日本でも最近普及してきたと言いますが、知名度が上がってきた『いい夫婦の日』と呼ばれる日でもあります。実は今日の主題説教はもう別のものを用意していたんですけれども、週報を作ろうとした時に 11 月 22 日というその日付を見て、「あ、いい夫婦の日だった」と思い、^{きゅうきよ}急遽折角なので” いい夫婦” について今日の主題説教を変更しようと思いました。普段から私はこの場所から夫婦について、聖書的な夫婦観というもの、結婚観というもの、また家族観というものは、何度となく重点を置いて教えてきております。ですから、今更というところもあるかもしれませんが、あらためて簡単ではありますけれども、“いい夫婦の日” に再確認をして頂いて、この教会にも沢山の夫婦の方が集められております。夫婦でない方も勿論いるわけです。でも、関係ないと思わないで頂いて、聖書において夫婦についてどのように教えられているのかということは、誰でもクリスチャンならば知らなければいけませんし、それを聞かれたら答えなければいけません。夫について、妻について、結婚関係について、クリスチャンならば聖書から分かち合える状態でなければいけませんので、「私は結婚もしてないし、独身だし、結婚するつもりもこれから先無いから関係ない」と思わないで頂いて、是非あらためて自分が正しく知っているかどうか、今晚の学びを通して覚えて頂きたいと思えます。

昨年、2014 年 11 月 22 日は、実は長野県では大きな地震があった日でもありました。『いい夫婦の日』の夜の 10 時過ぎだったわけですが、神城断層のところで地震がありました。長野県の神城断層地震と名付けられております。この辺りでは北部ですから揺れたところもあったわけです。白馬村を震源としたマグニチュード 6.7 とされる地震が起きて、結構な被害もありました。そういう日が丁度去年の今日でありました。いろいろ『いい夫婦の日』というのを調べているうちに、11 月 22 日がどんな日かというのも、他にも目に入ってきたので、ついでにシェアしておきたいと思えますが、つい忘れてしまうものです。今日が 11 月 22 日なので、『いい夫婦の日』で、あらためて自分たちの夫婦の関係を見つめ直したり、また他の夫婦のことを考えてみたりという機会にはなりますけれども、普段から忘れてしまうことです。普段からイエス・キリストが死から甦られたことを覚えて、毎日が主の日であればどんなにハッピーでしょうか。落ち込む日など一日たりとも無いはずですが、でも忘れてしまうので、日曜日になったら教会に来て「ああ、そうだった。主が死から甦られたのだ」と。墓も、そして死も、イエス・キリストを縛り付けることは出来なかった。死に打ち勝たれたお方なんだということを覚えたり、また聖餐式を通してイエスをまた思い起こしたり。そうやって記念日があるのは、私たちにとっては有り難いことです。

で、実は 11 月 22 日は『いい夫婦の日』のみならず、ペットたちに感謝する日でもあります。ペットたちに感謝する日、それはどこから来ているかと言いますと、犬の鳴き声が「ワンワン」、猫の鳴き声が「ニャニャニャ」ということで、ですから今晚家に帰ったらお家のペットを大事にしてあげて下さい。感謝してこんな私たちのために犬がいてくれて、夫婦喧嘩も犬も食わないとも言いますが、そうやって子はかすがいいと言いますが、うちのペットが実はかすがいいとなっているという家も少なくないと思えます。ペットに感謝するんじゃなくて、主にペットが与えられたことを感謝して欲しいと思えます。

もう一つは、『回転寿司の記念日』と。11月22日は実は回転寿司の記念日なので、また今晚回転寿司に、まだ開いていると思いますので。なぜそういう11月22日かと言いますと、回転寿司の考案者という方が白石義明さんと言う人なのですが、もう亡くなっている方です。1933年生まれで11月22日が誕生日だったということで、その回転寿司を考案した白石義明さんの誕生日が11月22日だったので、回転寿司の記念日と。元禄寿司というのが大阪にあるので、知らない人もいるかもしれませんが、回転寿司は大抵大阪から来ています。“スシロー”とか“くら寿司”とか、みんな大阪からきています。回転寿司という発想がもう大阪人の発想なんです。有り難いですけれど。

で、もう一つは『ボタンの日』というのがあります。そのボタンというのは1987年に制定されているんですが、知る人ぞ知るといったものだと思います。1870年の11月22日に国産のボタンが海軍の制服に採用されたことを記念して、『ボタンの日』と制定されたようです。

で、最後にもう一つだけ。11月22日は『大工さんの日』。大工さんの日というのは、日本建築大工技能士会が1999年に制定して、11月という月が技能尊重月間であるということと、十と一という漢数字を合わせると、その技能士の士、建築士の士、という字になるわけです。それゆえにふさわしいと。22日というのは、大工の神様とされる聖徳太子の命日です。旧暦の2月22日の22日を組み合わせると、これが大工さんの日というふうに無理やり制定した日であります。

そういった語呂合わせがあるんですけども、ただ一番しっくりくるのは、11月22日はいい夫婦というのが一番理解しやすく、普及しているものだと思います。車の希望ナンバーが1122が一番人気だということは、皆さん知っているでしょうか。いい夫婦というのを誰もが求めているんです。で、それを自分たちの車の番号に使いたい。それが多くの人たちの切なる願いと。希望ナンバーで、本当に自分たちがいい夫婦という希望を持ちたいという現れかと思えます。

で、もう一つ。これは記念日ではないんですが、興味深い事実としまして、漫画でもありアニメでもお馴染みの『サザエさん』の誕生日が11月22日であります。原作では1922年(大正11年)の11月22日生まれなんです。サザエさんは大正生まれなんですね。で、一応原作は27歳となっておりますが、アニメ版では24歳という設定だそうです。で、サザエさんの夫と言えば、マスオさんですね。で、そのサザエさんとマスオさんの夫婦は、実にいい夫婦の理想的な姿を描いていると、いろんところを調べたら書いてありました。以前私もブログの方でいい夫婦にちなんで、このサザエさんとマスオさんのことも書いたりしてるんですけども、そこに幾つかのエピソードが書いてありますので、参考までに少しそのサザエさんとマスオさんの夫婦の姿を皆さんにもお伝えしたいと思えます。

会社の面接官を任されたマスオさんがいい人材を採用して、カツオに「いい目があるね」と言われた時に放った一言。「なんてたって僕はサザエを選んだ男だからね」と答えたそうです。これは漫画でもアニメでも出ています。で、自分が悪いと思ったら素直にマスオさんは非を認めて「サザエごめんよ。赦してくれよ」と。まあそういうことがすぐに言える。滅多に喧嘩しないふたりですけども、そういう時にマスオさんはすぐにサザエさんに「ゴメン」と頭を下げて謝ることが出来る夫で、プライドを優先しないで、自ら非を認めたら言い訳しないで謝ることが出来る。男女間、夫婦間においては危機管理能力が高い人物だというふうに考えられるわけです。で、サザエさんは、皆さんも知っていると思いますが、慌て者でちょっとおっちょこちょいな面があるわけです。でもそういう面もマスオさんに言わせると「それがサザエのいいところなんだから」と言って、マイナス面もフォローしてくれると。そして、うっかり失敗することがあっても、短所を含めてそれを個性だと認めてくれるような、決して妻をけなしたりすることがないマスオさんです。で、サザエさんにお見合いで一目惚れしたマスオさんなんですけれども、サザエさんが本気で美人だと彼は思っているわけです。で、他の人の結婚式でサザエさんが花嫁よりも目立つ格好をした時に心配して放った一言は「君がそんなに綺麗だったら、花嫁に失礼じゃないか」と、マスオさんは言

ったそうです。で、またある時はひょんなことからマスオさんに浮気疑惑が浮上した時に、誤解を解こうとして放った一言。「僕が君を愛していることぐらい分かってるだろう。」これはちょっと怪しい感じなんですけれども。まあ確信に満ちて、そのことを胸を張って言えるという関係があるわけです。で、他にも結婚後も相も変わらず奥さんであるサザエさんのことをちゃんと名前と呼んでます。「オイ」とか、「お前」とか、あるいは子供がいたらつい「お母さん」と。夫が妻のことを「お母さん」なんて言ったりしますね。あるいは妻が夫のことを「お父さん」と言ったりします。これは変な感じですけども。でもマスオさんはちゃんと名前を読んでくれます。そういう意外な感じに聞こえたかもしれませんが、人気がある長寿漫画であり、またアニメでもありますけれども、そこに理想的な夫婦の姿、家族像というものが実は描かれているということを知って頂きたいと思います。よくよくサザエさんのことを考えると**箴言 31 章**の理想的な妻の姿を実は重ねることが出来ます。ついついサザエさんのユニークなキャラクターに目が行ってしまいますけれども、**箴言 31 章**とサザエさんを比べてみると実はピッタリだと言うぐらいサザエさんは理想的な妻の姿であります。これは皆さんもよく知っている箇所だと思います。特に妻の皆さんにとっては、**箴言 31 章**は毎日読んでいる箇所だと思いますので、ここでは敢えて読むことはいたしません、サザエさんの原作者の長谷川町子さん、彼女は聖公会のクリスチャンであります。内村鑑三の弟子で東大総長であった矢内原忠雄を通じて、無教会にも通ったことがあるということです。長谷川町子さんにはお姉さんと妹がいましたけれども、長谷川町さんは生涯独身を通しました。お母さんが非常に熱心なクリスチャンだということは知られています。もうすべて信仰が優先だという、そういう熱心なお母さんでした。ある時長谷川町さんが対談のインタビューを受けた時にこういうことを言いました。「うちの家庭は、信仰がないと生きていられないんですもの。神様を認めないでは生きていけない。」というふうに話しています。それがサザエさんの原作者の長谷川町子さんであります。で、彼女は『のらくろ』の原作者の田河水泡さんのところに弟子入りしたんです。『のらくろ』を知らない人もいるかもしれませんが、日本を代表する漫画の一つです。で、町子さんのお母さんがその時に、弟子入りする際に、「どうぞ町子をよろしくお願いします。何も望みはございませんが、たったひとつ、日曜日にはどこの教会でもよろしいのですが、お近くの教会の礼拝に出席させて下さいませんか」と。ひとつだけ母としてお願いがありますということで、実はそのことを切っ掛けに、田河水泡の妻の潤子さん（本名は高見澤潤子）と長谷川町さんは教会に通うようになりました。で、2 年後に師匠の奥さんの潤子さんもクリスチャンとなって洗礼を受けました。で、夫の『のらくろ』の原作者の田河水泡さん（本名は高見澤仲太郎）は、それに遅れて 17 年後にクリスチャンになりました。「ちっともうちの夫はクリスチャンにならない」と諦めないで下さい。17 年もかかったわけですが、最終的に『のらくろ』の原作者の田河水泡さんもクリスチャンになって、そしてクリスチャンとしてもいろんな本も書いてます。意外と知られてませんが、分かりやすい福音を説いた本も書いたりしておりますし、いろんなところに自分の信仰の証しを載せています。のらくろでも描いて欲しいなと思いましたがけれども。まあ死後に奥さんが出した『のらくろ一大事』という本があります。田河水泡自叙伝というものです。その中にクリスチャンになった理由は、何度も失敗してきた禁酒を、お酒をやめる禁酒を、今度こそ成功させるために信仰の力を借りようとした。それがクリスチャンになった切っ掛けです。酒をやめよう、やめようと思っても、ちっともやめられなかった。そしてキリストの力を借りて、それを切っ掛けに田河水泡さんはクリスチャンになられたということです。いろいろな切っ掛けを神様は用いて下さいます。最終的にはクリスチャン夫婦として、田河夫妻ですね、お互いに本当にいい夫婦として、またキリストの証人^{あかしびと}として晩年は過ごされたということです。ただ、いろいろ調べて見ましたら、田川さんと奥さんの潤子さんは、昭和 3 年に結婚されたんですけれども、田河水泡さんがキリスト教式が良いと、クリスチャンじゃないのに、キリスト教式が良いと言って、当時大変珍しかったわけなんですけれども、牧師に頼んで、これは仲人、奥さんの友人のお父さんが知り合いだったということで、そうい

う縁で牧師に結婚式をお願いして、キリスト教式で挙げたということです。昭和3年(1928年)ですね。当時としては非常に珍しくて、タキシードを着て、ウエディングドレスを着て、キリスト教式で結婚式を挙げています。『のらくろ』の原作者はそういう結婚式を挙げたんですね。でもまだ当時はクリスチャンでなかったわけです。今のキリスト教式結婚式のブームの先駆けみたいな感じですね。昔はハイカラと言ったわけです。でもそのあと夫婦は不思議な導きによって、弟子入りしてきた長谷川町子さんとそのお母さんがクリスチャンだったということで、最終的にはふたりは、田河夫妻はクリスチャンになるわけです。そういう驚くような神のご計画の中で、ふたりは救われ、ふたりはクリスチャン夫婦として、いい夫婦となって、最期を迎えていったわけですが、そういういい夫婦のことを、今日は皆さんと分かち合っていきたいと思えます。

で、折角なので私は1122というこの数字にこだわって、何か良い聖句はないだろうか。11章22節みたいな。それも捜して見たんですけども。マタイ11:22にいい夫婦のなんかピッタリとしたそういう聖句は無いだろうか。マタイ11:22『しかし、そのツロとシドンのほうが、おまえたちに言うが、さばきの日には、まだおまえたちよりは罰が軽いのだ。』これはちょっとまずいかなと思ひました。で、次にマルコ11:22を見ました。そうしたら『イエスは答えて言われた。「神を信じなさい。」』夫婦には必要なことです。「神を信じなさい。」これは良いかなと思ひました。で、ヨハネ11:22に『今でも私は知っております。あなたが神にお求めになることは何でも、神はあなたにお与えになります。』これも素晴らしい夫婦に対しての約束の言葉になろうかなと思ひました。また、ローマ11:22には『見てごらんください。神のいつくしみときびしさを。倒れた者の上にあるのは、きびしさです。あなたの上にあるのは、神のいつくしみです。ただし、あなたがそのいつくしみの中にとどまっていればであって、そうでなければ、あなたも切り落とされるのです。』これも警告の言葉としては夫婦にも必要かなと思ひました。また第1コリント11:22。『飲食のためなら、自分の家があるでしょう。それとも、あなたがたは、神の教会を軽んじ、貧しい人たちをはずかしめたいのですか。私はあなたがたに何と言ったらよいでしょう。ほめるべきでしょうか。このことに関しては、ほめるわけにはいきません。』まあ“いい夫婦の日”で1122の聖句を片っ端から聖書の中から拾い上げて見たところ、中々11章22節がなかったんですけども、あるものに関しては意外とメッセージ性のあるものが、偶然と言っても偶然は無いですけども、そういった言葉もいくつか認められました。

旧約聖書の方ですと箴言11:22『美しいが、たしなみのない女は、金の輪が豚の鼻にあるようだ。』これは良いかなと思ひました。で、第1列王記11:22『パロは彼に言った。「あなたは、私に何か不満があるのか。自分の国へ帰ることを求めるとは。」すると、答えた。「違います。ただ、とにかく、私を帰らせてください。」』夫婦に照らし合わせると、「もう帰らせて下さい。実家に帰らせて下さい。国に帰らせて下さい。」と。韓国に帰らせて下さいとか。まあいろいろ夫婦にはあるわけです。レビ11:22『それらのうち、あなたがたが食べてもよいものは次のとおりである。いなごの類、毛のないいなごの類、こおろぎの類、ばったの類である。』これはあまり関係が無かったんですけども。まあいろいろ1122で調べてみると意外といい夫婦になかなかいいな、意味深だなという言葉もありました。警告の言葉もありましたしね。非常に面白いものもありました。これはほとんど愛嬌みたいな感じで皆さんにお話しました。

聖書の中にいい夫婦に関することが書いてあると先に言いました。第2テモテ3:16には、聖書はすべて、神の靈感によって書かれていると。で、そこには、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。とあります。“教え”というものの中には、すべての教えという意味が含まれています。結婚に関する教えも聖書には当然書いてあります。結婚に関する戒めも。結婚に関して間違っていれば、歪^{ゆが}んでいけば、ずれていけば、矯正もできます。そして“義の訓練”というのは、その夫婦のいい関係をどうしたらメインテナンス(maintain)できるのか、維持出来るのか、より一層素晴らしいものに変えていくことが出来るのか、

成長できるのか。そのすべてが聖書の中に書いてあります。ですから何かを知りたいければ、必ず聖書を先ず開いて下さい。夫婦について知りたい。「夫婦関係で行き詰まっています。どうしたらいいでしょうか。もう途方に暮れています。いろんな専門書を読みました。いろんなところに相談に行きました。セミナーを受けたり、カウンセリングを受けたり。」でもですね、聖書は神の言葉として、真理の言葉として古今東西、普遍の真理としてすべての時代のすべての人たちに教えを与え、戒めを与え、そして矯正を与え、義の訓練を与えてきた書物です。時代時代に流行りがあって、考え方が変わってしまうというものではありません。昔の夫婦観とか、今の夫婦観。随分違ってます。昔良かったというものは、今は良くないと言われたりするわけです。逆に今良くないというものが、昔は良かったりするわけです。でも聖書は変わりません。どの時代にも通用するもので、それこそ私たちが信頼できるものです。日本人だろうと、アメリカ人だろうと、韓国人だろうと、どの国の人たちにも通用します。万国共通です。

今から、その夫婦について書いてある箇所。皆さんはよく知っていると思いますけれども、「夫婦について書いてある箇所はどこですか」と聞かれたら、すぐに答えるようにして頂きたいと思います。ルターと言う人がいます。宗教改革者のマルティン・ルター。彼が作った言葉で、造語で、“ハウス・ターフェル”という言葉があります。英語では、“ハウス・テーブル”という言葉ですが、その“ハウス・テーブル”というのは、何を意味するかというと、クリスチヤンの家庭訓、家庭の教訓ですね。それを“ハウス・テーブル”というわけです。その一覧。一覧のことをテーブルといいます。家庭の訓戒、家庭訓のことを“ハウス・テーブル”。その中に当然夫婦の教えも含まれるわけです。親子の教えとか、主従関係とか、そういったこともすべて人間関係を網羅している、そういう“ハウス・テーブル”。ルターはそれを“ハウス・ターフェル”と言いましたが、キリスト者の家庭訓の一覧と言われている箇所があるんです。それを今から告げますので、皆さんも知っているとは思いますが、確認して下さい。誰かに聞かれたら、「ここに書いてあります。」とすぐに言えるように。先ず、エペソ 5 章 21 節以降です。『キリストを恐れ尊んで、互いに従いなさい。(これが鍵となる聖句です。これが大前提となる聖句です。これをベースに“ハウス・テーブル”というものが作られていきます。家庭訓というものです。)²² 妻たちよ。あなたがたは、主に従うように、自分の夫に従いなさい。²³ なぜなら、キリストは教会のかしらであって、ご自身がそのからだの救い主であられるように、夫は妻のかしらであるからです。²⁴ 教会がキリストに従うように、妻も、すべてのことにおいて、夫に従うべきです。²⁵ 夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。²⁶ キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、²⁷ ご自身で、しみや、しわや、そのようなものの何一つない、聖く傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。²⁸ そのように、夫も自分の妻を自分のからだのように愛さなければなりません。自分の妻を愛する者は自分を愛しているのです。²⁹ だれも自分の身を憎んだ者はいません。かえって、これを養い育てます。それはキリストが教会をそうされたのと同じです。³⁰ 私たちはキリストのからだの部分だからです。³¹ 「それゆえ、人は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となる。」³² この奥義は偉大です。私は、キリストと教会とをさして言っているのです。³³ それはそうとして、あなたがたも、おのおの自分の妻を自分と同様に愛しなさい。妻もまた自分の夫を敬いなさい。』で、6 章には『子どもたちよ。』と続くわけです。“ハウス・テーブル”の今度は親子の話になります。今日は 11 月 22 日、いい夫婦の日なので、夫婦に関するところにとどめておきます。

キリストに先ず従うということが大前提であるということ。夫婦関係において、キリストに従うことが至上目的だということ。この事実を先ず皆さんに押さえておいて頂きたいと思います。どうしても、妻は夫に従うとか、そういうところに引っ掛かってしまう人がいると思いますけれども、その前にあなたはキリストに従いなさいと言っているんです。これが欠けたら、夫に従うことなんて絶対出来ません。また同

様に、妻を愛しなさいと言われても、それは中々出来ません。「あなたは、うちの妻がどんなふうか知らないからです」と、言うかもしれませんが、でもあなたは先ずキリストに従いなさい。そこから始めれば、その後続く命令は、引っ掛かることなくすなりと素直に受け入れられます。問題は、夫でもない、妻でも無いんです。問題は、あなたが主に従っているかどうかです。それが必ず夫婦において問われてくることです。キリストに従う夫婦ならば、必ず幸せになります。『しあわせ』という言葉は、『幸福』の“幸”と一般的に書きますけれども、辞書を見ていただくと『しあわせ』というのは仕え合う（仕合せ）というふうにも書きます。これは単なる造語ではなくて、実際に仕え合うと書いて仕合せと読むんです。本来はそのような言葉だったと思います。“幸”という言葉が、『しあわせ』と使いますけれども、でも本当は仕え合うことが『しあわせ』なんだと。夫婦がお互いにキリストに従っていれば、そしてお互いの関係においても仕え合っていれば、必ず『しあわせ』になります。それが聖書のシンプルな、単純明快な教えです。ですから皆さんにもいい夫婦になって頂きたいので、キリストに従うことから始めて頂きたいと思います。キリストに従っていないければ、どんなに夫婦関係を仲睦まじいように見せかけても、一緒に旅行したり、一緒にショッピングしたり、一緒に時間を過ごしたりしても、それは決して幸せな夫婦にはなれません。キリストに従っていない限りは、あなたは必ず不幸になります。別に脅して言っているんじゃないです。必ずあなたは、キリストの前に立つ日がやって来るので、その時にあなたは後悔します。キリストの前にあなたはいつか申し開きをしなければならない、その日がやって来るということです。幸せだったとは言えない日々がキリストから見せられます。そして、それがそのまま天において、私たちが天国でどのように過ごすのかというその天の報いに換算されて、主に従ってきたかどうかによって天国で幸せにより充実して満たされた生活が出来るかどうか。そこがかかってくるわけです。

今度はコロサイ 3:18 以降を見て下さい。『¹⁸妻たちよ。主にある者にふさわしく、夫に従いなさい。¹⁹夫たちよ。妻を愛しなさい。つらく当たってはいけません。』ここまでであります。さっきのエペソの5章 21 節以降の繰り返しとなっています。こんな一言で夫婦関係は良くなります。これに従えば、複雑な問題も悩みも単純に解決します。ひとたび妻が『主にある者にふさわしく』なるならばです。主にある者にふさわしくという部分を取り除いてしまったら、除去したら、これは不可能な命令です。「夫に従うなんて無理です。尊敬できない夫ですから。」夫たちが妻に対してもそうです。『夫たちよ。妻を愛しなさい』と。つらく当たってしまうことがあると思いますけれども、是非キリストと教会の関係を思い起こして頂いて、イエス・キリストはあなたに一度でもつらく当たったことがあるでしょうか。そのことを思えば自分の妻に対してつらく当たるなんてことは、とても出来ないことだと。

そしてテトス 2:4 以降も“ハウス・ターフェル”です。『⁴そうすれば、彼女たちは（彼女たちというのは”年を取った婦人たち”と前節にあります。年上の婦人は）、若い婦人たちに向かって（教えることが出来ます）、夫を愛し、子どもを愛し、⁵慎み深く、貞潔で、家事に励み、優しく、自分の夫に従順であるようにと、さとすことができるのです。それは、神のことばがそしられるようなことのないためです。』と。あなたがそしられても、神の言葉がそしられないように。それがクリスチャンの目的です。

そしてもう一箇所は第 1 ペテロ 2:18 以降です。『¹⁸しもべたちよ。尊敬の心を込めて主人に服従しなさい。善良で優しい主人に対してだけでなく、横暴な主人に対しても従いなさい。¹⁹人がもし、不当な苦しみを受けながらも、神の前における良心のゆえに、悲しみをこらえるなら、それは喜ばれることです。²⁰ 罪を犯したために打ちたたかれて、それを耐え忍んだからといって、何の誉れになるでしょう。けれども、善を行って苦しみを受け、それを耐え忍ぶとしたら、それは、神に喜ばれることです。²¹ あなたがたが召されたのは、実にそのためです。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されました。²² キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。²³ ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、

正しくさばかれる方にお任せになりました。²⁴そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。²⁵あなたがたは、羊のようにさまよっていましたが、今は、自分のたましいの牧者であり監督者である方のもとに帰ったのです。』ここで切らないで下さい。本来、章と節というものは原典には無かったんです。便宜上すぐに聖書の箇所が開けるように、後に章・節が付けられたわけです。切ってしまうと台無しです。**3章の1節**には、『**同じように、**(とあります。今まで読んできた内容を受けて、同じように、これが夫婦の関係に適用されます。尊敬の心を込めて主人に服従しなさいと言われてました。善良で優しい主人に対してだけでなく、横暴な主人に対しても従いなさいと言われてました。不当な苦しみを受けたとしても、神の前に良心におけるその悲しみをこらえていくなれば、あなたは自分を喜ばせる必要はありません。神が喜んで下さいます。同じように、ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。同じように) **妻たちよ。自分の夫に服従しなさい。たとい、みことばに従わない夫であっても、妻の無言のふるまいによって、神のものとなるようになるためです。(神のものとなる、これが最高の幸せです。)**²**それは、あなたがたの、神を恐れかしこむ清い生き方を彼らが見るからです。**³**あなたがたは、髪を編んだり、金の飾りをつけたり、着物を着飾るような外面的なものでなく、**⁴**むしろ、柔和で穏やかな霊という朽ちることのないものを持つ、心の中の隠れた人がらを飾りにしなさい。これこそ、神の御前に価値あるものです。(神の御前に価値あるものとは何かを追求して下さい。)**⁵**むかし神に望みを置いた敬虔な婦人たちも、このように自分を飾って、夫に従ったのです。(先輩たちのことを思い起こして下さい。)**⁶**たとえばサラも、アブラハムを主と呼んで彼に従いました。あなたがたも、どんなことをも恐れなくて善を行えば、サラの子となるのです。(アブラハムとサラ。このふたりもいい夫婦です。アブラハムは信仰の父であります。立派に聞こえるかもしれませんが、でもアブラハムがどんなに弱い人間だったのかは皆さんも知っての通りです。自分の命欲しさに、妻を平気で人身御供にするような、そんな不埒な男でもありました。でもサラは従ったんです。で、それは神に従うことでもありましたので、神がサラに報いてくださったわけです。神がサラを守り、神がサラを祝福して下さい。)**⁷**同じように (これがキーワードです。)、夫たちよ。妻が女性であって、自分よりも弱い器だということをわきまえて妻とともに生活し、いのちの恵みをもとに受け継ぐ者として尊敬しなさい。それは、あなたがたの祈りが妨げられないためです。』**アブラハムも弱かったですが、サラも弱かったわけです。弱い者同士支え合っていく必要があります。弱い者だからこそ、強い方につながっていく必要があります。より頼んでいく必要があります。夫婦だけではやっていけません。あなたの夫はあなたが思うほど強くないです。あなたの妻はあなたが思うほど強くないです。お互いに支えて頂けるように、守って頂けるように、導いて頂けるように、しっかり夫婦で手を繋いで、心を合わせて、祈っていく必要があります。そうすれば必ずいのちの恵みを必ず受け継ぐ素晴らしい祝福に^{あずか}与ります。

こういった箇所、**エペソ 5 : 21**以降、**コロサイ 3 : 18**以降、**テトス 2 : 4**以降、そして**1ペテロ 2 : 18**以降、そこがルターが言う“ハウス・ターフェル、ハウス・テーブル”というもので、キリスト者の家庭訓の一覧・テーブルであります。ですから聖書というものは、ありとあらゆるテーマを扱っていて、夫婦について、結婚についても、最高のテキストとして、最高のマニュアルとして、指南書として私たちの手にあるということを知って頂きたいと思います。いい夫婦になるための秘訣は、すべてこの本の中にまとめられています。夫婦円満の秘訣は、すべて聖書に見ることが出来るということを知って、高いお金を掛ける必要はありません。沢山の本を買い込む必要もないです。またカウンセリングとか受けて、お金を使う必要も無いですね。私たちはいつでも何処でも、この聖書を開いて読むことが出来ます。ちなみにルターはもともとカトリックの司祭だったわけです。で、カトリックの場合は独身制です。いわゆる修道士というものですから、ブラザーと呼ばれる独身だったわけですが、でもルターは聖書に立ち返って、聖職者

が男性の独身であり続けなければいけないということは、聖書的でないということに気付くわけです。で、彼は結婚するわけです。で、素晴らしい妻に巡り会いました。で、ルターの言葉を紹介させて頂きたいと思いますが、「妻よ。主人が喜んで家に帰るようにしなさい。夫よ。家を出る時には妻が悲しむようにしなさい。」これがいい夫婦の姿です。もう夫が喜んで帰って来れるように。そして夫が「行ってきます。」と言う時には、もう泣きそうな顔をして一秒たりとも離れたくない。夫がいなくてスッキリするんじゃないですね。そういう夫婦が本来いい夫婦として、ルターもそういう夫婦関係を持っていたということが分かります。で、これもルターの言葉です。「神の言葉に次ぎ、世に尊い財宝として聖なる結婚以上のものは無い。神の最上の賜物は、敬虔で神を恐れ家を整える妻である。」余程嬉しかったんですね。「良い結婚にもまして、愛深く友情あり魅力ある関係、交友、仲間関係はない」と。ルターは妻の支えがあって、あの大きな宗教改革という一大プロジェクトと言ってもいいかもしれません。彼一人でそれを成し遂げたんじゃないです。妻の支えがあったから。いろんな攻撃を受けたわけです。カトリックからの攻撃は、彼の命を脅かすものでもありました。でも妻が常に支えたんです。

そして、これはですね、史上唯一イギリスの首相となったユダヤ人クリスチャンであるベンジャミン・ディズレーリという人の言葉です。19世紀のイギリスを代表する政治家ですけれども、そのベンジャミン・ディズレーリは35歳の時に15歳年上の寡婦と結婚しました。で、その後の結婚生活は円満だったということなんですが、それは奥さんがさぞかし才色兼備のパーフェクトな奥さんだったからでしょうと皆さん思うかもしれませんが、でも実際にはディズレーリの奥さんは決して美人ではなかったということです。で、決して秀でたタレントがあったわけではないんです。ただ結婚生活において最も大切なことをひとつ兼ね備えていたことが指摘されます。それは何かと言いますと、尊敬の心で人と接するということでした。それを先ず夫に対して彼女は示したわけです。政治家という職業上、さまざまな悩みを抱えて、常に疲労困憊して帰宅するその夫に対して、いつも尊敬の心で迎え入れていたということです。結婚生活30周年を迎えた時にディズレーリは次のように言いました。「結婚生活30年の間、妻によって心が傷つくことは一度もありませんでした。」素晴らしい証しの言葉ですね。妻によって傷つけられる夫。あまり考えたことないと思います。妻はよく夫に傷つけられることが多いと思うんですけれども、妻の皆さんに夫の立場で伝えておきますけれども、男は非常に傷つきやすい者です。少しでもプライドが傷つけられたら、もうダメージが大きいということですね。そのダメージは仕事にも支障が出ます。そういう30年の間、妻によって一度も傷つけられたことがない。そのディズレーリがもう一言こう言いました。「従順な妻が夫を動かす」と。従順な妻が夫を動かします。妻が夫を心から尊敬して夫に従っていけば、夫はあなたの望むように動いてくれるようになると言っても良いかもしれません。

で、同じくイギリスを代表する政治家で、ウィンストン・チャーチルという人がいます。偉大なイギリス人の第一位となった人でもあります。BBCの調査で偉大なイギリス人の第一位、それがウィンストン・チャーチル。皆さんがよく知っているイギリスの首相でありましたが、彼もこういうことを言っています。

「私の業績の中で最も輝かしいことは、妻を説得して私との結婚に同意させたことである。」ものすごく説得力のある政治家だったんですが、彼の業績の中で最も輝かしいことは、どんな難しい政治の問題を解決したことよりも妻を説得して自分と結婚させたことだと言う、そのぐらいウィンストン・チャーチルにとって妻の存在は大きかったということです。彼の仕事にも勿論、国を動かすというその仕事にも妻の影響が強かった、大きかったということを知っているわけです。

で、もう一人イギリスを代表する今度は政治家じゃなくて、牧師でチャールズ・ハットン・スポルジョン。彼がこう言っています。「男にとって一番手に負えぬ妻とはどんな妻か。町の人には愛想が良く、教会では本当に信仰深く、家では鬼みたいな女さ。」まあ MGF にはひとりもそんな女性はいないと思いますが、そういう人が世の中には存在します。他の教会にはいっぱいいると思います。箴言 21 : 19『争い好

きで、うるさい女というよりは、荒野に住むほうがまだましだ。』また、箴言 25 : 24『争い好きな女と社交場にいるよりは、屋根の片隅に住むほうがよい。』同じく箴言 27 : 15『長雨の日にしたたり続ける雨漏りは、争い好きな女に似ている。』その一方で箴言 12 : 4には『しっかりした妻は夫の冠。』と呼ばれています。箴言 18 : 22には『良い妻を見つける者はしあわせを見つけ、主からの恵みをいただく。』

箴言 19 : 14『家と財産とは先祖から受け継ぐもの。思慮深い妻は主からのもの。』そして箴言 31 章。これは先程理想的な妻の姿が描かれていると言って紹介したところです。箴言 31 : 10『しっかりした妻をだれが見つけることができよう。彼女の値うちは真珠よりもはるかに尊い。』で、同じく箴言 31 : 29『「しっかりしたことをする女は多いけれど、あなたはそのすべてにまさっている」と。』他にも沢山ありますけれども、箴言の中だけでも、妻によって人生が左右されるというようなことが書いてあります。

イギリスのやはり有名な神学者でトーマス・フラーという人がいて、彼もこう言っています。「男性が持っている最良の財産、あるいは最悪の財産。それはいずれにせよ自分の妻ということになる。」最悪か最高か、妻次第です。このトーマス・フラーのもうひとつ有名な言葉が「妻は目ではなくて、耳で選べ」というのがあります。耳で選ぶというのは、結婚する前にいろいろ聞いておく必要があるということです。結婚相手のその女性はどんな女性か。親からも聞く必要があります。兄弟からも聞く必要があります。友達からも聞く必要があります。目で選んでは、「こんなはずじゃなかった」ということになってしまいますね。耳で聞くのは一番確かです。目からくる情報。自分の好みの顔立ちだから、体型だから。あなたの前での姿と親の前での姿、友達の前での姿は全然違ったりするわけです。ですから耳で選ぶ必要がありますね。これは勿論夫についても言えると思います。見てくれで決めてはいけないということです。

ロビンソンクルーソーの作者であるダニエル・デフォーという人、この人も敬虔な熱心なクリスチャンです。ロビンソン・クルーソーというのはそもそも信仰書であります。彼がこう言っています。「悪い夫を手に入れる女性は、大概結婚を急ぎすぎた人です。良い夫を得られるなら、いくら結婚が遅れても遅すぎることはありません。」まだ結婚していない独身の方もこの中にいますので、特に女性の皆さんに焦らないように伝えたいと思います。プレッシャーがあるかもしれません。もう適齢期だろうとか。最近ハハラになりかねないのと言わないかもしれませんが。まあ 20 代で結婚するほうが珍しい時代ですね。30 代とか 40 代で初婚というのは珍しくない時代になりましたけれども、でも周りのプレッシャーもあると思います。そろそろ結婚したらどうかとか。子供を産むのには若いほうがいいからとか。そういうことを言われるかもしれません。お見合い話があったりとか、いろんな人たちから紹介があったりとか。自分も勿論結婚願望があつてついついいろんな話に耳を貸してしまったり、自分もなんかそういう結婚願望に突き動かされてしまうような、見る男性は皆自分の結婚対象のように品定めするような、そんなことでは良い結婚は出来ません。悪い夫を手に入れる女性は、大概結婚を急ぎすぎた人だということを知って頂きたいと思います。

で、ロシアの文豪のレフ・トルストイ、彼もこう言っています。「急いで結婚する必要はない。結婚は果物と違って、いくら遅くても季節外れになることはない」と。遅い結婚が良いと言っているのではありません。若くて結婚して、沢山子供をもうけて、その子どもたちもまた結婚して、若い時分からおじいちゃん、おばあちゃんになって、そういう若い時に孫の顔を見れる。これも嬉しいことですし、まあ中々歳を取ったら小さい子どもたちをみるというのは大変なことですから、それはそれで祝福かもしれませんけれども、早ければ良いというものでもないですね。焦りは禁物であります。

三浦綾子さんは、皆さんも知ってますね。ロシアの文豪トルストイのあとに、日本の文豪と言っても良いと思いますね。結構いろんな病気を抱えながらも決して若くない歳に三浦光世さんと出会って結婚するようになったわけですが、綾子さんがこういうことを言っています。「私はキリストを信じたことと、三浦と結婚したことだけは一度も後悔したことがない。終わりの日までキリストに一切をゆだねて生きていき

たいと願っている。」そのように言い切れる夫婦かどうか、そこが今晚皆さんにも問われています。イエス・キリストを信じたこと、これは後悔ないと。私も後悔ありませんし、そういう後悔しているクリスチャンにはまだ一度も出会ったことはありません。でもクリスチャンでありながら結婚したことを後悔している人はいっぱい見てきました。実際にクリスチャンでありながら結婚関係が破綻^{はたん}してしまった。いい夫婦ではなくなってしまった。子どもたちもその結果傷つけられてしまう。そういうのは沢山見てきております。

「三浦と結婚したことだけは一度も後悔したことがない」と、よぎったこともない。胸を張ってそう言えるのでしょうか。そういう人を独身のあなたは選ばなければいけません。この人と結婚して一生私は後悔しない。そういう人をあなたは見つけなければいけません。そんなにすぐに見つからないかもしれませんが、神があなたを結婚に召されているならば、もう神はあなたにその人を用意しています。だから心配しないで下さい。これぞと思う人を探すんじゃなくて、あなたがその人に対して“これぞ”という人にならなければいけません。今がその時です。しっかり自分を磨いて下さい。花嫁修業しなさいと言っているんじゃないんです。妻であるならば夫の助け手とならなければいけませんから、助け手としての本分をわきまえて、その領域においてしっかり助けられるように、サポートできるように、ヘルパーになれるように、そうやって訓練を受けながら成長を遂げていく。男であれば将来神によって用意されているその妻のために、しっかり霊的リーダーとして立っていけるように。自分と結婚するその女性があなたと結婚して一片の後悔もありませんと振り返ってそう言ってもらえるような自分になれるように。あちこち品定めするように「この人じゃないか、あの人じゃないか」と、そんなことする必要はありません。あなたが先ずふさわしい者になれるように、神としっかりつながって、キリストにあなたが付き従っていくことが、今一番必要なことであり、それが実は結婚の最も近い早道だと言うことも知って頂きたいと思えます。

で、次に話すのは、これもいろいろブログにも実は書いてることなので、皆さんも目にしたことがある、読んだことがある内容だと思いますが、為になるものなので是非聴いて下さい。夫婦の十戒というものがあります。英語では“10 Rules for a Happy Marriage” 幸せな結婚生活を送るための10のルール。『夫婦の十戒』。モーセの十戒に掛けてそういうふうになっています。

- 1、同時にふたりして怒ってはいけません。
- 2、おうちが火事でないかぎり、相手を怒鳴ってはいけません。
- 3、あなた方夫婦のどちらかが、ある議論に勝たなければならないときは、相手の好きにしてあげましょう。(これは知恵がありますね。)
- 4、あなたがなにかについて相手を非難しなければならないとき、やさしく非難しましょう。
- 5、過去の誤りを指摘してはいけません。
- 6、世界中の何よりもお互いのことを大切にしましょう。
- 7、議論がまとまらない間にお布団に入ってはいけません。
(持ち越すことはしないでその日の内に片付けておく、解決しておくというのが、これが引きずらない秘訣ですね。)
- 8、最低一日一回、やさしい言葉か敬意の言葉を相手に言うように心がけましょう。
- 9、何か間違ったことをしてしまったら、それを認める用意をして許してもらえるようお願いしましょう。
- 10、口喧嘩をするには二人必要です。そして間違ってるほうがよくしゃべります。(的を得ているともいますね。)

で、同じようなものとして『夫婦円満十か条』というものもあります。

- 1) 伴侶は神の賜物であることをお互いに認識すること。(クリスチャンとしてこれがだいじですね。

先の『夫婦の十戒』というのはノンクリスチャンでも出来ることですが、今から挙げるのはクリスチャンにとって特に重要なことです。伴侶は神の賜物であることをお互いに認識すること。賜物ということには、その相手は神の子供です。夫は神の息子なんです。妻は神の娘なんです。神様の娘にあなたは平気で口汚い言葉でののしるなんてことが出来るでしょうか。神様の息子に対してあなたは馬鹿にして見下して、そんな高慢な態度でいいんでしょうか。夫はその妻に対して高圧な態度で出て良いんでしょうか。神の娘なんです。神の息子なんです。）

- 2) 相手のあるがままを受け入れる。主はあるが私の私たちを受け入れてくださった。(主はあるが私の私たちを受け入れて下さった。無条件の愛ですね。)
- 3) 十分な対話を。妻は子供にだけ関心を寄せないように。夫はどんなに忙しくとも。(コミュニケーションの大切さは皆さんの週報にも記していると思います。いい夫婦の日のアンケートがそこにまとめられていますので、そのアンケートを見て頂くと、今の日本の夫婦の姿が大体浮かび上がってきていると思います。夫婦円満の秘訣は「会話」と「感謝」！相手から言われた一言は「ありがとう」と。いろんな統計結果があつてまとめられています。「愛情を感じている」夫婦と「愛情を感じていない」夫婦では、平日の会話時間で約3.4倍の差があると。)
- 4) 互いの美点(美しい点)を引き出す心をもつ。ちょっとした美点でも見つけ出して与える賛辞(ほめ言葉)は、相手を励まし隠れた才能や賜物を引き出す。
- 5) 不可能なことを要求しない。(これは大事です。夫はあなたの救い主ではありませんから。あなたの心を満たしてくれるような期待をしてはいけません。あなたの心を、必要を満たすのは、主イエス・キリストのみです。) 夫の給料や妻の容姿についてとやかくいわない。(大事なポイントです。これは不可能なことを要求しないことに含まれています。)
- 6) 親しき仲にも礼儀あり。(第一コリント 13 章には愛の賛歌があります。愛とは何かという定義があります。そのなかに『愛は礼儀に反することをしない』とあります。親しき仲にも礼儀ありとは、日本人がよく使う言葉ですけれども、聖書の中にも『愛は礼儀に反することをしない』それが愛です。)
- 7) 性的汚れを警戒する。他の異性を慕い求めることは断じて避ける。きよめられた心の中に夫婦の愛は育つ。(とあります。結婚したからもう大丈夫と思わないで下さい。異性と二人きりになるのは自分の伴侶とだけです。それ以外の異性と二人きりになるとか、プライベートな時間を過ごすとか、それは避けて下さい。)
- 8) 共通の体験を出来るだけ多く持つ。時間と事情がゆるす限り夫婦同伴で行動する。
- 9) 愛やいたわりを見える形で。結婚記念日や誕生日を覚えていてささやかでも感謝のしるしを表す。(自分の伴侶との結婚記念日を皆さん覚えているでしょうか。誕生日を忘れるという人はあまりいないかもしれませんが、結婚記念日を忘れるという人は結構いますね。)
- 10) 秘訣中の秘訣 「自分が幸せかどうか問わなくもよい。しかし、あなたとともにいる人が幸せかどうかは問うがよい」(これが一番大事ですね。自分が幸せかどうか。自己中心だったら決して幸せになれません。あなたとともにいる人が幸せかどうか。それがひいてはあなたが幸せになる秘訣だと言っているわけです。)

そう言いながらも夫婦はやはり衝突します。喧嘩するわけです。仲がいいほど喧嘩するというふうにも言われたりしますが。ですから喧嘩はどうしても避けられません。でも喧嘩にもルールがありますね。『夫婦げんかの十か条』というのがあります。これは実際的なので是非適用して今日から実践して頂きたいと思います。早速今晚の帰りの車の中から始まるかもしれませんので、心して聴いて下さい。夫婦の間に争

い、衝突は、避けられないですし、それは実際には問題ではないですね。問題はそれをどう扱うか、どう処理するかが問題です。十か条ですから10あるわけです。喧嘩してもいいんですけども、ちゃんとルールを守っていくということですね。

1. 真実を語る

夫婦間には真実がなければなりません。うそは真実のコミュニケーションを妨げます。

一つうそをつけば、それをカバーするのにもっと多くのうそをつかなければなりません。成熟した人の一つのしるしは、愛を持って真実を語ることです。(これは夫婦に限らず、クリスチャンとして嘘についてはいけないわけですね。それは罪です。)

2. 怒りをコントロールする

アメリカの刑事さんの話では、「アメリカの殺人の大多数は計画的ではない。抑制されていない怒りの瞬間に起こる」のだそうです。夫婦げんかにおいて感情をコントロールしなければなりません。怒りを爆発させる代わりに、できるだけ冷静になって、「~のことで怒りを感じている」と相手に伝えなければなりません。(いきなり怒鳴りつけるとか、いきなり黙り込むとか。何で怒っているのか分からない。これが一番良くないですね。ちゃんと、怒ってもいいんですけども何で怒っているのか。勝手に怒るとか、いきなりブチ切れるとか、じゃなくて、ちゃんと理由を告げていく必要があります。怒りに関して私たちは聖書にも教えを見ることが出来ますので、「怒っても罪を犯してはなりません」と。また) 怒りに関してイスラエルの王ダビデはすばらしいアドバイスをくれます。「怒っても、罪を犯すな。寝床で自分の心に語り、静まれ。」

3. 延長戦はしない

その日のうちにできるだけ問題を解決することです。けんかをしたとしても寝る前に終らせるのが一番です。怒りを持ったまましているとそれが潜在意識の中で結晶化してしまい、苦い根が心の中に生えてしまうからです。(もうふて寝してしまうとか、「もうどうせ言っても分からないから」といってもう布団の中に入ってしまう。日が暮れるまで怒ったままではいけないと聖書に書いてありますね。徹夜してでもちゃんと夫婦で向き合って、逃げずに解決するまで語り合うべきであります。)

4. 時を見計らう

怒っている時、疲れている時には夫婦げんかをしないことです。「今はやめよう」「後で話そう」と言わなければならない時もあります。

5. 肯定的である

この点がダメだ、あの点がダメだと批判ばかりして、肯定的な要素がないのはいけません。夫婦げんかの「嵐」によって「もや」が吹き払われて、今まで見えなかった相手の良いところが見えてくることもあるのです。(何でもかんでも夫婦喧嘩がダメだというものじゃないですね。)

6. 「言うことを忍ぶ」

夫婦げんかをしていても、「もう別れよう」とか「もう愛していない」というたぐいの決定的なことばを口から出さないことです。夫婦は「認め合う」関係でなければなりません。「認める」とは、「言うことを忍ぶ」と書きます。つまり、認め合うということは、互いに言うことを忍ばなければならないこともあるということです。(週報の方にも、『夫婦を漢字一文字で表すと』というアンケートに対してトップは、夫婦ともに「忍」です。忍耐。それが全体では13.1%とトップです。その次が「愛」ですね。9.1%。その次が「和」、平和の和、和平の和。7.6%。で、続くのは「楽」6.6%と。夫婦別ですと、夫は「忍」という字を選んだのが12.2%、トップです。妻に関しては夫と同じくやはり「忍」の一文字がトップですけども14.1%です。ちょっと妻の方が耐え忍んでいるということがここからに

じみ出ております。20代では「愛」がトップです。でも40代以降は総じて「忍」がトップを独占していくわけです。まだ若いうちは「愛」という言葉がいつもちらつくわけですがけれども、もう40代位になってくると「忍」という字がいつもちらつきます。皆さん分かっていると思いますね。でも聖書は最初から分かっています。『愛は寛容である』先ずは寛容から始まるんです。それが愛ですね。愛は勿論すべてを耐え忍ぶと言われてます。愛は寛容である。愛は忍耐、忍ぶということですね。それが聖書の愛でもあります。ですから決してこれは否定的な意味で捉えるべきではありません。忍耐がなくなったら、もう夫婦関係は崩壊します。)

7. 他人をまきこまない

結婚 = 批判許可証だと思っている人がいますが、それは間違いです。夫婦げんかをしていても、第三者の前で結婚相手を非難しないことです。冗談交じりにでも、皮肉にでも言わないことです。(口で罪を犯しやすい私たちですから気をつけて下さい。人前で自分の伴侶の悪口を言わないということ、否定的なことを一切言わないということです。)

8. 苦い根をはやさない

苦い根とは、心の中にはえる苦々しい思い(うらみとか、赦せない思いなど)のことです。苦い根は、切って捨ててしまわないと、心の中にはびこって、やがては芽を出して悩みの花を咲かせて周りの人に大きな害を及ぼします。結婚相手につらく当たっているとしたら、苦い根があるしるしです。早く取り除いて捨ててください。

9. 復讐しない

仕返しをしても何の足しにもなりません。「復讐はしない」ということを夫婦げんかのルールにしてください。注意:相手がこのルールを守らなくても、復讐はしないことです!(相手があなたに復讐してきても、あなたは復讐しないということです。復讐はわたしのすることである」と主は言われます。)

10. 赦し合う

夫婦関係にしても、国際関係にしても、争いの悪循環を断ち切る唯一の方法は、相手を赦すことです。赦すと損をすると考えるかもしれませんが、実は赦さない本人が一番損をします。相手を赦さないでいると、その赦さない思いが自分を牢獄に閉じ込めて、不自由になります。赦したら解放されます。

結論

夫婦げんかはどちらが勝つか負けるかが大事ではありません。争いが解決したら二人とも勝ちます。ですから「私対あなた」ではなく、「私たち対この問題」という意識を持ってください。夫婦は同じチームなのですから!(伴侶があなたの敵でないということです。夫婦は一心同体です。同じチームです。同胞です。同労者です。仲間です。)

で、それとはちょっと違うアプローチですが、『離婚十戒』というのがあります。これは明治の女流小説家ですが宇野千代さんの、きものデザイナーでもあって実業家でもあって、100歳近くまで生きた人なんですが、彼女はプライベートで4回も離婚を繰り返しています。ヨハネの福音書の4章に出てくるあのサマリヤの女のようなですね。そんな彼女の体験から彼女は『離婚十戒』というのを書きました。

第一条...妻はその新婚生活の始めから、一刻も夫の傍らを離れる事をしない。(一刻も、一分たりともという言い方ですね。)

第二条...妻はその夫の最初の浮気の時、徹底的に、めっちゃくちゃにヤキモチをやくこと。夢にも『あかし、あなたを許すわ』などと言うことなかれ。(勿論浮気なんてとんでもない話ですがけれども、すん

なり許すなんてことは言ってはいけないと言っています。彼女はクリスチャンじゃありませんから、聞いて下さい。)

第三条...家庭の中を警察署にすることなかれ。

第四条...ケンカしてくしゃくしゃした時に、直ぐに表へ飛び出すことなかれ。

第五条...『あなたと違ってあたしだけはいつも正しい人間よ』と言う風にする事なかれ。反対に、妻はいつでも、夫の悪いことの共犯者になること。

第六条...夫の描く夢を、方っ端から叩き潰すことなかれ。

第七条...夫の欠点を夢にも言葉に出すなかれ。また心の中でも、繰り返して考える事なかれ。夫に関してはオノロケ以外は口にすることなかれ。

第八条...絶えず愚痴をこぼしている事なかれ。

第九条...いつもどこか体の調子が悪い、と言って訴える事なかれ。

第十条...何事にも、陰気で深刻な表情をすることなかれ。

離婚を4回も繰り返している人の言葉ですから重みがあります。クリスチャンじゃないですけども、こういったことから彼女は離婚に至ったということから自らを赤裸々に教えてくれているわけです。

で、今度はクリスチャンの日本の牧師の言葉を紹介しますが、榎本保郎という『ちいろば先生』として有名な人です。「愛はある意味では損なことである。自分が損をしていくことが愛である。自分が得をすることは利用だと思ふ。結婚に破綻を来す人が多いが、その人たちのことをいろいろ問うてみると、利用以上に一つも出て来ない。だから利用価値が無くなればその人と共に共同生活をしていくことが出来ない。」もう用済みということです。自分にとって役に立つか、役に立たないか。利用価値があるか、ないか。それがあなたの結婚生活のベースになっているならば、必ず破綻します。この人と結婚したらどんなメリットがあるか。どんな利用価値がこの人にはあるのか。今は健康でもあります。今は安定した収入もあります。病気になったらどうでしょうか。あなたが介護しなければいけないんです。仕事を失ったらあなたが経済を支えなければいけないんです。妻としてどうでしょうか。夫の立場だったらどうでしょうか。今は見た目もあなたの好みかもしれません。でも結婚したら、すっぴんになったら騙されたということがあるかもしれません。あなたとデートを重ねている頃は最高の姿であなたの前に現れてくれているだけで、結婚したらどうでしょうか。勿論老化現象も出てくるわけです。でも愛は無条件のものですね。そして愛はそのような利用価値があるかないかではなくて、むしろ価値なき者にも注がれるべきものです。それが神が私たちに注いで下さっている愛というものです。この愛がなければ、結婚関係は長続きはしないということです。

で、これも有名なあるクリスチャンの非常に実際的なアドバイスの言葉です。夫婦として絶対に押さえておかなければいけない基本事項がまとめられた内容ですから、ちょっと聴いて下さい。

『愛情さえあれば、その思いは自然と妻あるいは夫に伝わるはず。』そんなふうに考えている人は決して少なくないようです。けれど一方では、相談を受けるカウンセラーの多くが「夫婦問題の大半はお互いの意思の疎通の不足に起因する」と言います。より良いコミュニケーションを図り、心の通い合う夫婦となるために、大切なこととは何なのでしょう。私たち男性は帰宅すると殻に閉じこもってストレスから逃れようとします。妻が一日どれほど散々な目に遭ったかを聴く気にはなりません。自分の仕事上のトラブルを話しても仕方がありません。子供と遊ぶ元気も残っていません。家族にはもう放っておいて欲しいのです。しかし、家に帰ってもそうやって家族の必要を無視し、家族との心のふれあいをしないなら、現状は悪化していくだけです。家族問題の原因の多くは、とても単純なものなのです。あなたの注意をそこに注げれば、それでコミュニケーションがとれ、それで問題は解決できるのです。

女性の最も大切なニーズのひとつは、会話だと言えます。妻は夫と語り合い、その思いや経験を分かち合いたいと願っています。小さな子どもの一人遊びを注意して見たことがありますか。女の子は大抵おしゃべりをしながら遊びます。抱いている人形を、赤ちゃんは赤ちゃんに見立て、お母さん役をします。他方、男の子はあまり話しません。大抵「ブーブー、ゴワ、ダダダッ」というような音をたてます。女性が会話能力において男性に優るのも無理はありません。女性は話を聞いてくれて、話し相手となってくれる夫を必要としています。妻の話を聞く夫は、妻を愛していると言えるでしょう。心の通い合う会話。ところであなたは男女の話題の違いに気付いたことがありますか。男性は、スポーツ、仕事、趣味、哲学、それから他の多くの話題について話します。しかし、自分の気持ちや人間関係について話すことは稀です。それに引き換え女性は多くの場合友人や同僚、自分の兄弟や子供、そして夫に人間関係や自分の気持ちについて話します。女性は自分や他人について深く考え、分析します。しかし男性は人間関係については表面的なことばかり話します。男性たちは妻に対して心を開くことを学ぶ必要があります。そんなことをしたことがないという男性は意外と多く、妻に対して一生心を開かず終わる男性もいるくらいです。その結果、彼らは深いレベルで妻と一体となる経験を味わえません。多くの男性にとって心の深い感情を話すことは、小さい頃から培われた男らしさのイメージにそぐわないのでしょう。ですから男性が弱さを隠さず、自分の仮面の奥に隠された真実を妻に知らせるのには、勇気がいるのです。しかし、恐れる必要はありません。なぜならほとんどの妻は夫の声にならない本当の気持ちを知りたいと切望しているからです。夫が妻に心を打ち明けるなら、二人の関係が益々深くなり、今まで見えてなかった世界が見えて来るようになります。ふさわしい時に自分の気持ちを上手に妻に話せる夫は、妻からの愛と親密さという豊かな報いを受けるでしょう。

男性のニーズとして、夫には妻からほめられ、励ましを受けたいという思いがあります。妻に認められ励ましを受けている夫は、困難な仕事にも雄々しく立ち向かい、一人では決して出来ない大きな仕事を成し遂げることが出来ます。逆に妻から尊敬されず批判ばかりされている夫は、失望して諦めてしまいます。ですから夫がおっちょこちょいだったり、妻が期待するほど頭が良くなかったとしても、妻は夫をけなしたり、焦って意思の決定を夫から奪ってしまわないことが大切です。妻は夫をなじるのではなく、責任を果たすように上手に促して、よりよい夫になっていくように忍耐を持って見守るほうがずっと良いのです。妻の態度は、人間としての夫と、そして仕事に大きな影響力を持ちます。アメリカで成功しているビジネスマンは夫婦関係がうまくいっている人がほとんどだという調査結果があります。男性がビジネスに成功したのは、家庭でのいざこざに足を引っ張られることなく、妻が夫を心から支えていたためだったのです。妻はあらゆる機会を見つけて夫をほめるべきです。今はまだ彼女の理想には遠かったとしても、長い間には彼女の励ましは大きな違いをもたらすのです。』

長い引用でしたけれども、夫婦関係のエキスパートの人の言葉です。で、その人はこの中にいます。これを書いたのはジョナサン・ベネディクトさんという人なんですけれども、いい夫婦はそこにいますので、非常に具体的な実際的なアドバイスだったと思います。『二人のために』という本もありますし、教会にも置いてあるので、また是非目を通して下さい。

これでそろそろ終わりたいと思いますけれども、いい夫婦とは「私とゆきこのことです。」といつか言いたいと思いますけれども、いい夫婦というのは、単に仲睦まじい、表面的にラブラブな夫婦のことを言うのではありません。いい夫婦というのは、聖書的には、キリストと教会の関係を反映している夫婦のことを『いい夫婦』と言います。結婚の成功というものは、その関係が“キリストと教会の関係”、これを反映するに至ることを言いますので、それが究極です。そこを目指して頂きたいと思います。現状で満足してはいけません。勿論大前提はクリスチャン同士ということになってます。第2コリントの6章には、良くない夫婦のあり方も書いてあります。それは、つり合わぬくびきを負ってしまう夫婦です。信者と不信者

との間にはどうしてもつり合いがとれません。結婚している段階でどちらか一方が先にイエス・キリストを信じてクリスチャンになるケースもあるでしょう。そういうケースで実際に夫婦共救われていくということも珍しいことではありません。ただ、これは皆さんに肝に銘じておいて頂きたいことですので、どうしても私たちは今聞いたような、聖書に書かれているような、聖書的な結婚観、あるいは価値観、人生観、そして死生観。そういうものを大事にして、優先していく中で、それを持たない人たち、それを受け入れない人たち、信じていない人たちとは、やっぱり相容れないことがあるわけです。そのところで、どうしても衝突したり、あるいは衝突を避けるために妥協しなければならない事態がやって来ます。ですから、つり合わぬくびきを負わないというのは、大事なことです。クリスチャンの方は、最低でも結婚相手はクリスチャンとして先ず祈り求めて頂いて、勿論知り合った時は相手がノンクリスチャンだったかもしれない。そのうちにクリスチャンになって、そして最終的にはその人が自分の生涯の伴侶になるということもあるかもしれません。でも、それは私たちがコントロール出来ることではありませんので、少なくとも私たちは、先ず自分自身がキリストに従っていくことが肝要であるということ。クリスチャンだったなら誰でも良いわけではありません。それは、名ばかりでイエス・キリストに全然従っていないクリスチャンもありますから、クリスチャンだったなら誰でも結婚していいということは決してありません。ノンクリスチャンということであれば、結婚しても別に救いを失うとか、一生不幸になるとか、そういうことを私は脅して言いたいわけではないんですけれども、でも明らかに行き先が違うふたりが、一生涯どうやって歩調を合わせながら、同じ方向に進んで行けるでしょうか。片や天国に行って、片や地獄に行く者たちが、どうやって幸せにこの地上生涯を全うできるでしょうか。夫婦というのは一心同体となる関係です。ですから、どちらかがどちらかに歩調を合わせなければいけないわけです。勿論ノンクリスチャンの方がイエス・キリストを信じることによって、あなたと同じいのちを持ち、あなたと同じ神を信じて、あなたと同じ行き先を持てれば幸いですけれども、結婚する前にそう願いながら、見切り発車をして、そしてノンクリスチャンと結婚してしまったけれども、結局は今でも相手は信じないでそのまま自分とは全く違う価値観を持って、考え方を持って、全然違う方向に進んでいるんだということでは、結婚した意味がないと思います。仮に本当に相手があなたのことを愛してるならば、あなたが一番愛しているもの、一番大事にしているものに、必ず興味を持つはず。あなたを本当にリスペクトしているならば、相手はあなたの信仰をリスペクトすると思います。あなたがそれ無しでは生きていけないというものがあるならば、相手はあなたのことを本当に愛していれば、それを歓迎すると思います。共有すると思います。本当に愛があるならば。でも愛がないから、「信教の自由がある。あなたが何を信じようと全然構いません。それぞれの道を行けばいいんです」と。「一切干渉しないでくれ」と。そこには愛がないです。愛があるならば、相手の一番大事にしているものを決して軽視しないはずであります。それをむしろ興味を持って自分も探求するでしょうし、自分もそれを信じてみようと、強制は出来ませんが、少なくとも関心を持って信じてみようと、自分もそれについて一生懸命学んでみよとなるはず。愛があるか、無いかが問題です。もし、そのような愛が無いならば、結婚する相手ではないと思います。あなたが一生涯すべてをささげる相手になるとは私は思いません。大変厳しく聞こえるとは思いますが、それが現実であります。結婚生活がそんなに甘いものでないことは、皆さんがよく知っていると思います。そんな甘い考えでは、人生の危機に直面した時に、例えば相手が死ぬとか、愛する家族がもう亡くなろうとしているとか、子供が教育の問題で大変な問題にぶち当たって、いじめの問題だとか、あるいは子供なりに悩んで自殺を考えるようなことがあるかもしれません。そういう時に同じものを持っていない夫婦がどうやってその子供に対応出来るでしょうか。死の向こうに同じ行き先を持っていないそういう夫婦がどうやってその危機的な状況をふたりで話し合っ乗り越えていくことが出来るでしょうか。無理ですね。今は何もないから、別に何を信じていようと構わないと平気で言うかもしれませんが、その時になったら遅いです。慌てて信じ

るなんてことは出来ないことですね。今信じられない人は、いつまでたっても信じられないと、そう思って頂いて構わないと思います。ですから、結婚相手というのは慎重に選ばなければいけません。一生後悔することになります。勿論神のあわれみはあります。恵みはありますから、失敗した人もあると思います。この中にも、もっと慎重になれば良かったと、でも結婚してしまったから仕方ないと思っている人もあると思います。主のあわれみは尽きませんので、是非あきらめずに、投げ出さずに、今の状態で主を求めて、今の状態で従って下さい。そうすれば主が必ず働いて下さいます。あきらめないで下さい。でも、まだ結婚してない人は、そのような苦勞をする必要がないということを知って、是非失敗者からも学んで下さい。私のこの警告の言葉に素直に耳を傾けて下さい。そうすれば、必ずあなたの結婚は、本当にそれが主のみこころならば、素晴らしい祝福の伴うものとして用意されています。それをあなたは受け取るままになるということです。

結婚というのは、倫理の問題だと思ったら大間違いです。実は、聖書的に言うと、結婚は『贖いの教理』というものに属します。これを最後にして終わりたいと思いますが、マーティン・ロイド・ジョーンズの言葉です。『教理と実践を分けて考えるくらい大きな誤りが他にあるであろうか。そういうことをするならば私たちは非常に不法なことをしていることになる。結婚という状態を贖いの教理の点から常に考える人が、私たちの中にどれだけいるだろうか。夫と妻という結婚の関係を私たちのうちのどれだけの者が、そのように考える習慣をもっているだろうか。贖いの教理という点から、本能的に結婚を考えるのが私たちの方法であるだろうか。結婚の問題をどういう分野で考えることをするだろうか。倫理学というかもしれないが、結婚は倫理学に属していない。むしろ贖いの教理の点から考えなければならないのである。キリスト者の中で最も愚かな者は誰であろうか。それは教理を好みぬ人々、神学とその教えの重要性をけなす人々である。実践の失敗は、そこから来る。この教理と実践を分離することは、不可能である。贖いの教理をただ改心や学びにしか関係がないかのように考えてはならない。常にあの十字架のもとにとどまっていなければ、十字架があなたの生活の全体を支配しなければ、あなたの展望とあらゆる活動に影響を与えなければ、決して聖化のあゆみをするにはならない。』

ただの倫理の問題だと思ったら、必ず行き詰まります。でも贖いの教理、難しく聞こえたかもしれませんが、簡単に言えば十字架です。常に十字架にあなたが立ち戻るならば、十字架の足元に帰っていくならば、これは夫婦の問題とか、結婚関係に勿論限定されませんが、必ずそこであなたは回復を経験します。癒やしを経験します。そして、よりいっそう神の救いをほめたたえて、神の愛を実感することが出来ると思います。そういう贖いの教理に結婚は属するというのも、もう一度考え直して頂きたいと思います。イエス・キリストがどのようにご自身を私たち教会に与えて下さったのか。これが分からなければ、夫は妻を愛することがまともに出来ません。自分の夫こそ、自分が出会った人間の中で一番キリストの似姿に似ている人ですと、妻にそう言わせなければ、その結婚、夫婦関係はいいものとは言えないということです。あなたの妻が、夫のあなたのことを「私が知っている男性の中で、この人ほどキリストに似ている人は他に知りません」と言わしめる、そういう関係になれば、決していい夫婦とは言えないわけです。そういうゴールをあなたは設定しているでしょうか。これは、私が男なのでちょっと厳しく男性の皆さんには聞こえると思うんですけど、でも先ずキリストが私たちのためにいのちを投げ出して下さった。そこからすべて始まっています。贖いの教理からすべて始まっています。ですから、私たちも男性としては、そこから始めていかなければいけません。夫婦関係を育むのは、妻じゃないんです。夫です。夫が妻のからだを愛して、自分自身のように愛して、そして妻の成長を願っていく。成長させていくのは夫であります。リードしていくのは夫であるということが、先のエペソの5章に書いてありますから、これを怠れば、この点において怠慢になれば、決していい夫婦になれませんし、妻にいろいろプレッシャーをかけることになります。いろいろ妻に望んでしまうことになりますので、そこから私たちは始めなければいけないと

いうこと。特に男性の方は肝に銘じて頂きたいと思います。

で、今日はこれで終わりたいと思いますけれども、本当にこれは自分の力では出来ないことであることはもう明らかですから、私たちは夫婦して祈るべきです。毎日祈らなければいけません。この祈りが妨げられないように。先程の**第1ペテロ3章**のところ、読んだ通りですので、是非祈って下さい。私の牧師のチャック・スミスがこう祈ってます。『神よ。妻に安心感を感じさせ、従うことが出来るよう、愛をあらわせるように助けて下さい。神よ。すべてを失ってお互いが残り、愛とともに主がいてくださることを理解し、夫と討論しないで、夫が愚かなことをしていると感じた時に、黙っていられるように助けて下さい。主よ。それだけが私たちに必要なことです。夫とその権威に従えるように助けて下さい。』それが、それぞれその夫と妻の祈りであります。では、今日はこれで終わりたいと思います。